

令和7年度葛飾区行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第3回第一分科会
開催日時	令和7年7月18日（金）午前10時から12時まで
開催場所	葛飾区役所新館5階 庁議室
出席者	【委員8人】 (出席) 大石会長、折登委員、齋藤委員、佐藤委員、柴崎委員、 関口委員、高橋委員、谷本委員 (欠席) なし 【区側7人】 事務局（経営改革担当課長、事務局職員4人） 広報課（広報課長、広報係長）

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 事務事業の概要説明、ヒアリング

(広報課から追加資料について説明をした後、質疑応答、議論)

大石会長：スポーツ面や産業面の編集・校正の統一はできないのか。

広報課長：校正のスケジュールが各所管課によって異なるため、編集・校正の統一はできない。

A 委員：資料1について、広報紙を各施設に多く配布しているとのことだが、多すぎではないか。広報紙を各世帯に配布しているので、各施設への広報紙配布数を削減してもいいのではないかと感じた。特にスポーツセンターには広報紙を多く配布しているため、残数が多い。余った広報紙の残部を処分するのは非常にもったいないと感じた。全施設の広報紙残部が0になるように削減してもいいのではないかと感じた。

広報課長：スポーツセンターは、今回の調査を踏まえて削減を検討している。配布部数を削減しすぎると、号によっては残数がなくなってしまい、不足時の対応が遅くなる懸念もあるため、多めに配っていた。広報紙が多く余っている施設を中心に削減していきたい。

大石会長：削減して、不足している施設から連絡をもらうなど工夫してほしい。

(「広報かつしか発行」の基本情報について質疑応答、議論)

B 委員：ペーパーレスという考えもあるが、ウェブやインターネットは目的

があつて検索するものなので、広報紙をウェブやインターネットで閲覧しようという人は少ないのではないか。紙は無駄なように思えるが、広報紙が届くことで、区からのお知らせを知ろうとするきっかけとなり、常時手元にあると見る機会につながるため、一概にペーパーレスを進めるために紙を減らすということではないと思う。

- C 委員：資料4-1の15ページ、「広報紙は月に何回発行するのが良いのか」について、現行のままがよいとの回答が一番多かったが、月1回発行と月2回発行の回答を足すと過半数になる。内容自体は好評のため、パワフルかつしかやスポーツかつしかを一緒にして効率化したり、2月は日数が少ないので2回にするなど、回数削減の検討をしてもよいと考える。区民にとって、その時期に最も大事な内容が伝わるか、という企画部分に力を入れてほしい。また、文字を読むのが得意ではない方のことを念頭に置いた紙面づくりもしてほしい。
- D 委員：資料4-1、4-2で他自治体との比較があるが、資料4-2で本区が1位になっているように、情報は広報紙で手に入れられるので、現状のままよいと考える。これまでの取組が評価されているので、このまま続けた上で、無駄なところを削減してほしい。
- E 委員：広報かつしかの紙面は必要だと考える。広報かつしかで私たちの活動について掲載・周知しているが、スマートフォンで見ようとしたときに、該当ページが開けず、紙面で見ることが楽だった。余った広報紙を廃棄することはもったいないが、各施設への配布部数を少しずつ削減しつつ、全戸配布するだけでよいのではないか。
- F 委員：地区センターのラックを見ると広報紙が余っていることがあるが、紙は基本だと考える。今までのルールを改め、各施設への配布部数を少しずつ減らして、調整すればよい。

(「広報かつしか発行」の実績情報について質疑応答、議論)

- A 委員：イベント関係は一つのページにまとめたほうが見やすい。また、文字量について、号や事業によって異なるので、揃えた方が見やすいのではないか。
- C 委員：資料4-1の3ページに広報紙の閲読状況が出ているので、これを指標としてもよいのではないか。指標として入れなくても、現場では把握してほしい数字である。
- 広報課長：今後も区民モニターアンケート等を活用して把握していきたい。
- G 委員：区民モニターは毎年どのように実施しているのか。

広報課長：すぐやる課が実施している調査である。毎年全部署から募った調査項目について、ウェブモニター500人に対して、年間4～5回質問をしているものである。本委員会で資料として提供しているのは、区民モニターの中で令和5年度に広報紙に関する質問をしたものである。

D 委員：資料3の必要な区政情報を十分に得られているかどうかについて、来年度も同じ設問にするのか。他自治体のようにレベルを分けた設問に変更するのか。

広報課長：個人としては、他区と同じように選択肢を増やしたいが、同じ質問をすることで経年変化を取っているのので、担当部署と相談したい。

D 委員：経年の変化を取っていて難しいのもわかるので、バランスをとって考えてもいいと思う。

（「広報かつしか発行」の予算及び決算状況について質疑応答、議論）

C 委員：現在、広報で発行している点字版とデイジー版は、国庫支出金と都支出金で賄っているのか。

広報課長：障害者に関する障害者地域生活支援福祉費の一つに点字版等の項目が入っており、障害福祉課が全庁を集約して歳入としている。それでは足りないため、区からの持出しもある。

C 委員：ホームページの音声読み上げを実際に聞いてみたところ、広報の最初に記載している住所まで読んでしまう一方、見出しがデザイン化されている部分の音声は読まない。本当に使えるものかという視点で考え、文字が読みづらい方に対して工夫してほしい。

広報課長：デイジー版利用者は令和6年度で23人である。この方々にCDを配っている。令和6年度には日本視覚障害者職能開発センターに委託している。視覚障害のある方が読みやすい内容になるように配慮されている。ホームページの音声読み上げは今後検討していきたい。

F 委員：コストについては、かなりシビアに検討されており、配布方法が無駄なところかと思うので、部数の見直しを早急にやってもらえればと思う。

A 委員：広告の申込み増に対して値上げは考えていないとのことだが、広告料を上げ、入った歳入をほかのところに使ったほうが良い。広告料はほかのところでも上がっており、意識してほしい。

広報課長：社会的な物価上昇を意識しながら検討したい。

大石会長：人件費7.9人は年間の人数なのか。

広報課長：そのとおりである。

事務局：この広報紙の業務を常時行っていると考えたとき、年 7.9 人という解釈である。

広報課長：第 1 回分科会の時、月に 3 号発行していて、会長から人員が足りないのではという言葉いただいた。

F 委員：7.9 人でよくこれだけのことをやっている。増員してもよいのではないか。

大石会長：区民にとって必要な事業であるため、検討してもよいと考える。

（「広報かつしか発行」のその他について質疑応答、議論）

C 委員：学習障害の一つであるディスレクシアの方や普段読んでいない人に広報かつしかについてヒアリングをすると、「カラー版が読みやすい」、「写真があって文字が少なめだと読みやすい」、「夏の子ども向け講座など、対象がわかるものに分類されているとよい」という意見があった。自分がこの情報を読みたいという紙面になっていたり、文字数とイラストのバランスが整っていると読みやすくなる。

大石会長：小中高向け広報紙は考えたことはあるか。

広報課長：子ども向けの内容自体の記事量が多くないので、具体的に検討したことはない。

大石会長：政治や区の行政については、子どものころから触れるのがよいと考える。

広報課長：子ども向けには、子育て政策課が子ども向けホームページを作ったところである。広報紙では、年に一回、小学生が記者となって子ども広報を作っている。ただ、子ども向けの記事が少ないのが現状である。

E 委員：カラフルな広報紙は見やすく感じる。ただし、対象によっては見づらいことがある。例えば、6 月の広報の一面にマイナ保険証の資格確認書送付の記事があり、高齢者向けかと思ったら、2 面を見るとイベント情報になっており、高齢者を対象とした記事を集約してもらいたい。また、子ども向けの記事もお知らせのページにあったり、スポーツ面に載っていたりとバラバラである。

大石会長：記事が多くて読みづらい。

E 委員：必要な情報がどこにあるのかわからない。

広報課長：高齢者向けにはシニア面を設けて、そのページの文字を大きくするなど工夫はしているので、いただいた意見を踏まえ、改善したい。

B 委員：各区で広報紙を発行する度に、広報紙を相互に送付しているのか。

広報課長：時差はあるが、各区で毎号相互送付している。

3 事務連絡

事務局より事務連絡

4 閉会